

かお・人・interview

2022年8月30日

部長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
営繕部 部長

板橋 薫氏

ITABASHI Kaoru

九州管内営繕事業の中心である営繕部は、官庁施設の改修、企画立案などを行う。公共建築物は利便性や災害を防ぐ役割があるが近年は地域の交流拠点とした目的でまちづくりに貢献した取り組みにも積極的だ。また、災害に対しての応急活動も計画的に推進し地域の一時避難所の防災にも力を発揮している。業界の活性化、多様化する公共建築の現状と課題を板橋部長に話を伺う。

Q 部長就任にあたっての抱負

九州地方整備局の営繕部は、コンスタントに事業があり、職員の数も多く活気があります。そこで、就任してすぐに成長途中である入省1年目の若手職員と意見交換会を開きました。自分たちの強み・弱みを話し合う姿を見て、のびのびと仕事ができる環境が整っていると安心しました。その意欲を消さないような職場環境を用意するのが、私の役割だと思います。

同様に、建築設計業界や建設業界の人たちの実力を発揮してもらうため、我々発注者側の制度が負担になっていないか、意見を聞かせていただきたいと考えています。問題があれば、改善できる案を模索していきたいです。近年はコロナ禍もあり、制度的な制約など難しい面はありますが、一つでも多くの課題を解決できるよう事業を進めていきたいと思っています。



▲熊本地方合同庁舎B棟整備等事業

Q 赴任先の思い出

印象的な勤務地はいくつかあります。まずは関東地方建設局（当時）営繕部移転機関設計課時代に行ったプロジェクトを思い出します。都心部にある国の機関を、郊外に移転させる大型新築事業です。外注設計・監理を活用して比較的短い間に多く携われました。規模が大きいので、工事期間も長くすべてに関わってはいませんが、当時の記憶は鮮明に残っています。

フィリピンへの海外赴任も忘れられません。プロジェクトに関わった期間は1年と短いものでしたが、国や文化の違いを体験したことが刺激的でした。

独立行政法人での建築発注に関わられたこともいい経験でした。国の営繕発注との違いやその対応などを知ることができました。

Q 災害活動の拠点となる行政施設



▲福岡第一合同庁舎（耐震ブレース）

風水害、地震等による災害時においても国家機関の行政事務を行う場である官庁施設には、災害応急対策活動や行政事務の継続に必要な機能が求められています。そのため、「防災・減災対策」として、官庁施設の耐震化、天井脱落防止対策、防災上重要な室や設備機器を想定水位より高い位置に設置する等の浸水・津波対策、商用電源が途絶した場合に備えて自家発電設備等による電力の確保等を図っています。

新庁舎への建替え事案では、当該地区で予想されるあらゆる災害に対応できるように整備しています。

Q 脱炭素社会の実現に向けた取組

営繕事業の実施に当たっては、環境負荷低減に資する技術の採用などにより、官庁施設の脱炭素化を推進しています。

今後予定する新築事業を原則 ZEB Oriented 相当以上としており、2030 年度までに新築事業の平均で ZEB Ready 相当となることを目指しています。



▲木材の利用促進（西都児湯森林管理署）

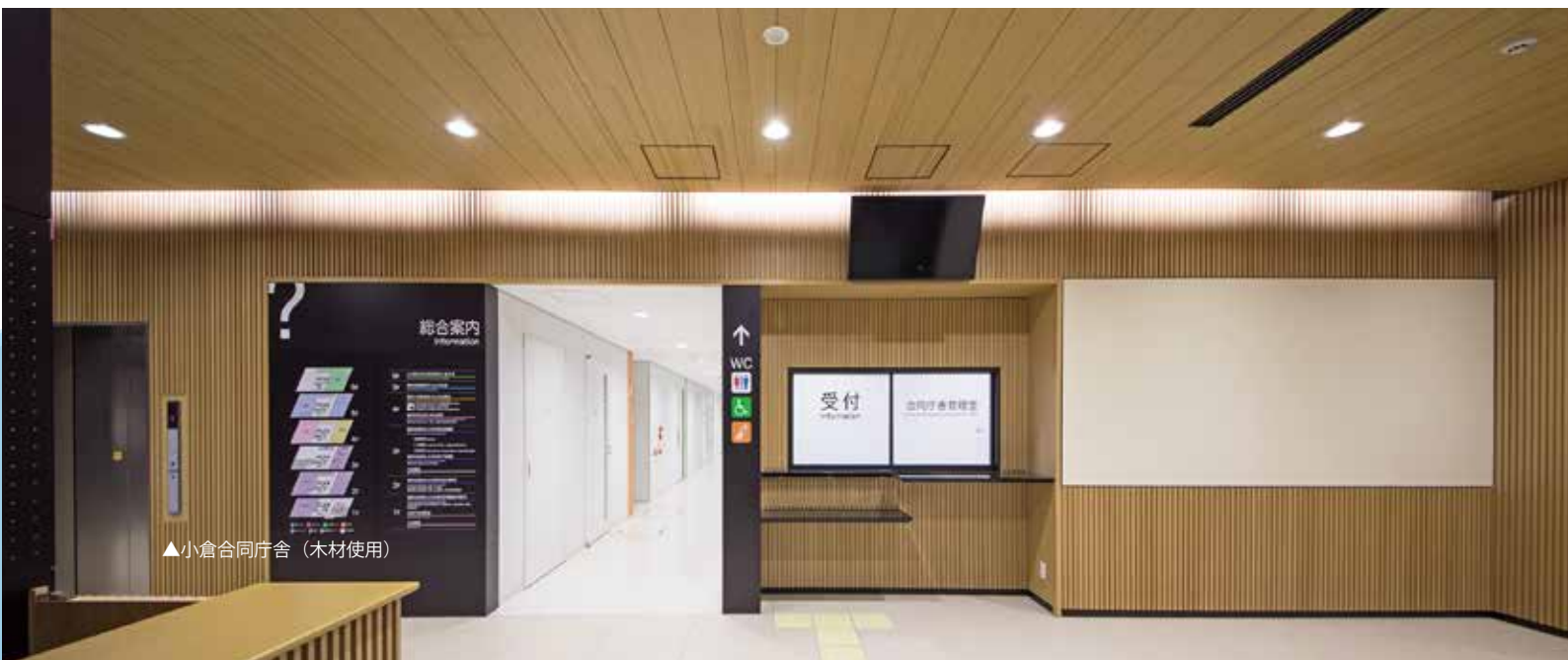
また、官庁施設の整備においては、災害応急対策活動に必要な施設等を除き、原則として全て木造化を図っています。

Q 防災・減災を含めた地域との連携

九州だけの話ではありませんが、日本は毎年のように水害、地震などの災害が起こっています。自然災害を全て防ぐことはできませんが、対策を考えることはできます。それが施設の役割に合わせた防災です。

熊本地震の際に熊本合同庁舎のエントランスロビーが住民の一時避難場所になりました。他の施設でも同様に、帰宅困難者が安全に帰宅開始できるまで、官署や施設の性格に応じた一時滞在施設としての整備を行っています。「津波避難ビル」は、治安上のことを考えると常時解放は難しいですが、対応策の一つとして、強震時などの条件下で自動開錠させるような機能をもたせるなど取り組んでいます。

また、地域の拠点となる合同庁舎の整備では、地方公共団体など地元の声を伺う場を設け、立地条件に



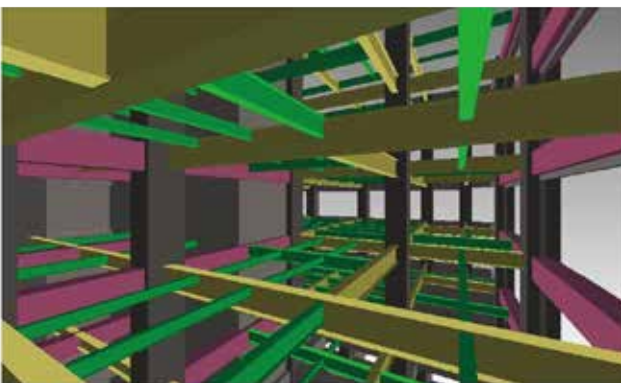
▲小倉合同庁舎（木材使用）

応じて景観形成、観光促進など、可能な限り整備に反映させるようにしています。

Q生産性向上・施工合理化のBIM活用

営繕事業の設計段階や施工段階で BIM を活用し、3Dモデルによる検証、複数案の比較検討、部材間の干渉チェックなど、関係者間の迅速な合意形成や意思決定に役立っています。このほか、施工段階で、受注者におけるデジタル技術の導入を促進するほか、遠隔現場やウェブ会議を用いて受発注者間における情報共有の更なる円滑化を図っています。

なお、受注者側のデジタル技術活用に対応した発注者側の人材育成として、BIM 研修を隔年開催し、他の整備局や地方公共団体の営繕担当職員も参加しています。(令和3年度は、コロナ禍のため当地整職員のみ)



▲構造フレーム部分(BIM)

Q九州地整の働き方改革について

営繕工事においては、

- ・適正な工期設定(工期設定の適正化、週休二日の促進、工事発注の平準化)
- ・予定価格の適正な設定
- ・生産性向上(ICTの積極的な活用、書類の簡素化、関係者間調整の円滑化)に取り組んでいます。

なお、九州地整自体の働き方改革について、「女性職員活躍と職員のワークライフバランスの推進のための国土交通省取組計画」に基づき、業務の効率化・デ

ジタル化、勤務時間管理の徹底、マネジメント改革、仕事と生活の両立支援、女性の活躍推進などに取り組んでいます。

Q地域建設業界への要望、メッセージ

建設業界の皆さんが能力を十分に発揮できるよう、要望があれば、是非聞かせてください。また、民間工事を含めた様々な経験から、特に頑張ったこと、施主に褒められたことなど、自慢話なども教えていただきたいと思っています。過去の仕事内容を知ること、新たな取組みや発想につながる可能性があります。設計者も含め、発注者、施工者が様々な意見を交わすところに、互いの成長があるのだと思います。

Q趣味や健康法について

日頃からストレスをためないように体を動かして適度に発散させています。メニューは毎朝のストレッチ、2日に1回の筋トレ、週末のジョギングなど。運動ができないときも、中学から慣れ親しんだクラシックギターを弾いて心をリラックスさせています。他に、映画を観たり、小説を読んでいて、泣ける場面ですっかり涙を流して感情を動かすと心身がリフレッシュされます。

プロフィール



出身地:東京都
 生年月日:S40年3月8日(57歳)
 S63年4月 東北地方建設局営繕部建築課
 H3年 4月 関東地方建設局営繕部新潟分室設計課 建築設計係長
 H5年 4月 国土庁大都市圏整備局特別整備課調整第三係長
 H8年10月 関東地方建設局移転機関設計課 設計官
 H10年4月 JICA 長期専門家(フィリピン建設生産性向上計画)
 H11年4月 中国地方建設局営繕部建築課 課長

H13年 4月 関東地方整備局積算課 課長
 H14年 4月 内閣府沖繩総合事務局開発建設部営繕課 課長
 H16年 7月 財務省理財局国有財産調整課 宿舍技術専門官
 H18年10月 大臣官房官庁営繕部 設備・環境課営繕環境対策室 企画専門官
 H21年 4月 北海道開発局営繕部 営繕整備課 課長
 H23年 7月 内閣府沖繩総合事務局開発建設部 営繕調査官
 H25年 4月 関東地方整備局甲武営繕事務所 所長
 H27年 4月 大臣官房官庁営繕部 整備課木材利用推進室 室長
 H28年 4月 中国地方整備局営繕部 部長
 H31年 4月 東北地方整備局営繕部 部長
 R 2年 4月 独立行政法人 労働者健康安全機構医療企画課 営繕企画監
 R 4年 4月 現職